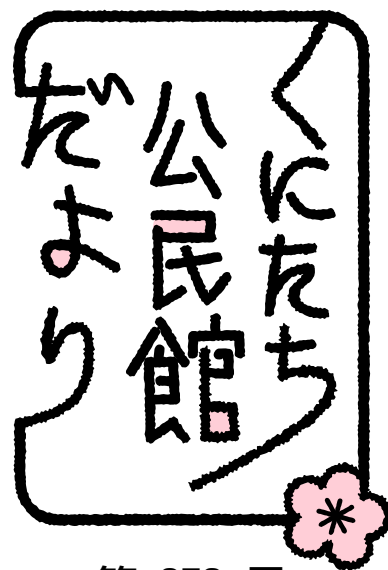


# タイトルデザインが 新しくなりました

昨年の4月号から新しいタイトルデザインの募集を開始したところ、21作品が寄せられました。改めてお礼申し上げます。選考は第14期公民館だより編集研究委員会によって行われ、話し合いで決まりました。



第 659 号

2015年1月5日

(平成27年)

発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

今回決定したタイトルデザイン

を作成してくださったのは「くにたちエッチングの会 ぶれす・る」です。今号では、会の紹介とともに、メンバーの一人である中井さんに文章を寄せていただきました。

この会は月に2回程度、公民館で活動しています。メンバーは3人で、全員が昨年度の公民館講座「はじめての銅版画」に参加していました。

講座では、細かな線を描写して数回にわたって腐蝕したり、さまざまな色で刷ってみたりと、一つの作品を仕上げることに没頭し、毎回3時間という時間があつという間に過ぎました。

講座終了後に開催された作品展および「版画をつくってみよう！—プレス機体験ワークショップ—」で再会した3人は、自分たちでサークルを立ち上げました。

しかし講座とは違い、作品作り

だけに集中できるわけではありません。道具を揃えることから始まり、プレス機の圧の調整や後片付けなど、すべて自分たちでやらないと始まりません。公民館講座の講師の方にもアドバイスをもらいながら、道具を揃えたり作品作りを始めました。

公民館だよりのタイトルデザイン応募に向けては、3人それぞれが考えたデザインに対して皆で意見を出し合いながら試行錯誤を重ね、結局その中から3つのデザインを応募。版画サークルらしく、既成の字体にない味のあるものを目指し、版画で大まかな作品イメージを作成したそうです。

その後は、くにたち市民文化祭の総合美術展への出展を目標にするなど、作品作りに励んでいます。今後ますますのご活躍が楽しみです。

## 迎春

はじめまして。

このたびは「公民館だより」の新タイトルに採用していただき、ありがとうございます。

昨年公民館主催のワークショップ「はじめての銅版画」で知り合った3人で「エッチング同好会(仮)」を立ち上げました。ある日、タイトルデザインを募集しているらしいというのを知り、発足間もない会ながら、みんなで取り組んでみようということになりました。エッチングは奥が深い、



プレス機は公民館の貸出備品です



「くにたちエッチングの会 ぶれす・る」の3人

と思います。パソコンとプリンターを使えば、同じ絵を何枚も複製できますが、版画は1回1回刷るたびに微妙にちがう絵になります。木版画のような凸版でなく、版を腐食して凹版をつくりインクを詰めてプレス機で圧をかけて刷るのが銅版画です。中でもエッチングは5百年前から続く技法だそうです。「超」のつくアナログな世界ですが、線描やインクのにじみにはデジタルにはない魅力を感じます。実際紙面になったタイトルを見ると、いささか緊張します。この採用を励みにこれからも楽しみなが活動を続けていきたいと思えます。名前のなかった同好会は「ぶれす・る」(プレスして刷る、から)としました。(くにたちエッチングの会 ぶれす・る 中井一人)

# 公民館と市民、市民どうしをつなぐ教育・文化への「招待状、 —第14期公民館だより編集研究委員会のまとめ—

「公民館だより編集研究委員会」は、第15期公民館運営審議会（以下、公運審）の意見書により、1986年に、公民館だよりについて市民の立場から読みやすい紙面づくりをしようと発足しました。公運審委員3名・一般市民委員5名の計8名の委員が、月1回定例会を開いて、公民館の担当職員も交えて、公民館だよりについて感想や意見の交換、「サークル訪問」欄の作成などを行っています。  
（\*印は公民館運営審議会委員）

この2年間、「くにたち公民館だより」の編集に携わってきた委員の任期終了にあたり、各々から寄せられた感想を紹介しします。

### 委員の役割と活動

島本優子

「公民館だより」の編集研究委員会（編研）を知っていますか？「編研」といっても、「公民館だより」の編集をしているわけではなくありません。毎月、公民館職員と委員が集い、全体のレイアウト、内容、講座の反響等について話し合いを行っています。また、最後のページ「サークル訪問」のコーナーは、実は委員が取材、執筆を行っています。

最初に委員に誘われたとき、こんな活動があることに驚きました。しかし、例えば5年前の「公民館だより」と比べると、今の紙面が明らかに変化していることに気づくはず。見出しの付け方、写真の入れ方等、確実に見やすくなっています。これは、委員の意見をもとに職員が工夫をこらし、それに対して委員が評価する、その積み重ねの結果です。

委員に共通するのは「公民館だより」を更に魅力的にし、より多くの市民に読んでもらいたいという思いです。毎月第一水曜日夜、

あまり知られていない地道な活動が、「公民館だより」を下支えしています。

### 編研委員を体験して

\*石井直美

文章を書くことがとても苦手なのに、うっかり編研委員を引き受けてしまいました。苦手だからこそ経験すべきだと、自分を奮い立たせて参加したものの、最初はとても戸惑いました。しかし同時に、よりよい「公民館だより」を作るために、こんなにも力を注いでいる人たちがいるんだということを知り、非常に感心しました。なんとなく読んでいたけれど、編研で意見を聞きながら見ていると、公民館の担当者のすばらしい工夫がわかったり、でもまだ工夫の余地があったり、講座の質の高さに気づいたり、なんとなくではもったいないことに気づかされました。

2年間の任期を経てこれからは読者として、「公民館だより」を支えていきたいと思っています。

### サークル訪問で触発されたこと

\*長田利信

文を書いたり、記事の内容について感想を述べたりすることが苦手だったが、編研委員の皆さんと「公民館だより」の、「テーマの



ここでの議論から読みやすい紙面が飛び立っています

思えた。

公民館がそんな人々を育てられる施設として、また「公民館だより」がそんなふうに見える情報誌として読まれたらいいと思う。

### 素敵な出会い

小原正子（副委員長）

何の予備知識も無く編集研究委員になり、2期4年が過ぎました。人生初めての取材は、少しでも気持ちよく知人の着付けサークルを訪問しました。

あらかじめ情報を伺い当日は楽しい雰囲気や伝わるような写真、と心掛けた訪問記は、会員増加の嬉しい報告もあり、素人記者？は第一歩が踏み出せました。

自分らしい文章で伝えるのは毎回とても難しい作業です。委員会での助言をいただき完成した時は、達成感に満ちた幸せな瞬間でした。

若い女性のグループ、体操、朗読などいろいろなサークルを訪ね、今までの生活だけでは絶対に叶わなかった方々との出会いは、私には大事な宝物になりました。また思いがけず、「生涯の趣味」も見つけることが出来ました。

職員の方々の前向きで真摯な姿勢と市民の目で、これからも充実した「公民館だより」が発行されることを期待しています。

印象的企画と国立に住む喜び

三好紀子

委員になって「公民館だより」を読むワクワク感が増えました。退職を機に、「公民館だより」を市民の目で批評する機会を与えられたので、もう少し客観的に読む必要に迫られ、他の委員と紙面づくりで意見交換する楽しみが増えたからです。

新鮮だったのは昨年7月号、夏休みを控えて子どもが公民館を一日占拠するのかなような企画が並んでいます。「そうだった。私は公民館の保育室に子どもをあずけて学ばせてもらったのだった」とはるか昔のことを思い出しました。公民館は赤ちゃんから高齢者まで、だれにも開かれた場であり、ひとと出会い、いっしょに話したり行動したりしながら一人一人が社会的な存在として育ち続ける場とせずと機能してきたのだと実感しました。



タイトルデザイン選考中

市民が自由に使える会場があり、現代の課題を探り続ける職員の働きがあり、すぐれた企画事業を逃さず集まる市民がいます。こうした動きを「公民館だより」の各ページで確認しながら、ひそかに私は思っています。「国立に住むことはちよつとしたぜいたくだ」と。

市民の学習権を保障する場

富田和枝

編研委員会に参加させていただき、サークル訪問の取材で、私たちのテーマを長年にわたって学び続けている人々の緊張感や真摯さに身が引き締まる思いがしたり、一面に載る講座の報告や参加者感想から学ぶことへの熱い思いを感じたり、国立の市民の活動を直に知ることができました。加えて、このゆるぎのない市民の活動が、60年前から市民による公民館づくりや映画『町の政治』で伝えられる勉強するお母さんたち、取材させていただいた「国立婦人の会」等々の多数の市民の活動の伝統のうえに成り立っていることも知ることができました。

そして、今こそ、「反知性主義」に抗う、大切な拠点に国立公民館がなっていると思います。公民館は市民の学習権を保障する場所であることを第一として運営してほ

しいと切に願います。それには市民の誰もが、個人として、等距離でつきあえる「公」の機関としての公民館、全戸配布の「公民館だより」を大事にしていきたいと思っています。

読者の立場になって情報を伝える

\*大井利雄

委員になって「公民館の活動」と「公民館だより」について、深く考える契機になった。情報を読む立場では分からない「情報を伝える難しさ」「創造する喜び」を体感する貴重な機会を得たことを感謝する。

毎月の会議の積み重ねの工夫が、限られた紙面に少しずつ反映されていく過程が楽しみだった。特に8人の委員が交代で取材、作成する「サークル訪問」の記事は、編集会議での熟論、伝える気配りを含めて、国立の多種多様な活動の深さを知る得がたい時間であった。先人の熱情と職員の継続した努力の積み重ねが、文教都市としての国立イメージを支える素晴らしい企画と結果を生みだしている。「公民館だより」が魅力をもち、一人でも多くの方が、関心をよせ、参加し、喜び、共感を持って刺激し合える仲間を地道に広げたい。行政と協力しながら市民目線で

の独立性と新鮮さを保ち、市民による市民のための便りとして市民全員で育て、成長することを願う。

「公民館だより」の使命

武内法行(委員長)

以上でお分かりのように、編研委員は直接編集に関わっているわけではありませんが、以下の点につき討議や指摘を行っています。

- (1)主に最新号につき検討、提言。
- (2)「サークル訪問」原稿の校正と写真・キャッチコピーの決定。
- (3)その他「連絡事項や委員の執筆担当決め等。特に今期ではタイトルデザインの変更と実施。

まず(1)ですが、最近では、紙面を斬新なものとするよう職員に要望し、特集記事や写真の効果とその扱いを検討してきました。限られたページ数で費用的制約も大きいのですが、若手職員の頑張りもあって、かなり改善されてきていると感じています。また反響が大きかった講演の要約や参加者の感想を特集とするよう勧められています。これは、参加した方には再度、文字で内容を確認してもらおう機会を、参加出来なかった方へは情報の提供という意図があります。いわば講演のフィードバックで、その記録が蓄積となり、公民館と職員の間にもなる

期待しています。

- (2)「サークル訪問」記事は委員が各自2年間で3回取材をし、原稿を書いてきました。記事が反響を呼び、入会希望者が次々……などという報告があると、皆から「おー」という歓声が挙がります。この仕事は、公民館と市民をつないでいることの実感を得る瞬間です。

(3)以上のように、内容向上に努めています。その変化が一目瞭然となるよう、タイトルデザインを変えることにしました。新しい装いで今後公民館の発信機能がより強化されるよう願っています。国立市公民館は、建物の見かけはともかく活動内容は優れているとよく言われますが、確かに優れた講師の多い講座のレベルや多様な市民サークル、館の利用率の高さは他市のそれと比べても突出しています。それをより広く伝え、今後の向上を計るのは、この「公民館だより」の使命だと思っています。経費上の観点で「公民館だより」と市報の一体化という声もあると聞きますが、それは国立市公民館と「公民館だより」の独自性と役割への理解不足からくるものと委員は感じています。

この広報誌の意義が広く周知徹底されるよう、次期の委員にも期待しています。

朗読  
ワークショップ  
発表会

ピースリーディング in 国立

# 「いま、憲法のはなし—戦争を放棄する意志」

昨年9月より、参加者を募って実施してきた朗読ワークショップの発表会です。

日本国憲法ができた背景にはどんな時代の流れがあったのでしょうか。また憲法と私たちの日常はどのような関わりがあるのでしょうか。前半は、いまこの国で起こっていること、世界で起こっていることに思いを馳せながら、ワークショップ参加者が憲法を読むことを通して考え、表現してきた成果を共有したいと思います。

後半は、弁護士の川口創さんと台本の作者石原燃さんとのトークです。市民の声に寄り添い活動してきた川口さんには「立憲主義」や憲法前文にある「平和的生存権」のお話を、石原さんには台本に込めた思いをうかがいます。

とき 1月18日(日) 昼2時～4時半(開場:昼1時半)  
ところ 公民館 地下ホール  
定員 60名(申込み先着順)  
申込先 1月6日(火) 朝9時～  
公民館 ☎ (572) 5141

〈図書室のつどい〉

## 生活に根ざす「学び」を求めて —世界各地のノンフォーマル教育—

講師 太田 美幸 (一橋大学)

学校での勉強は、何に役立つのだろうか—こうした疑問はなぜ湧いてくるのでしょうか。ノンフォーマル教育(Non Formal Education)とは、制度の中で一定の様式で行われる学校教育(=フォーマル教育)以外の多種多様な教育(たとえば生涯学習、多文化教育、途上国での識字教育、女子教育)を指します。本講座では、世界各地のノンフォーマル教育についてお話を伺い、こうした疑問に迫ります。

〈太田さんの本〉

『ノンフォーマル教育の可能性—リアルな生活に根ざす教育へ』(共編、新評論)ほか

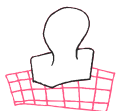
とき 1月15日(木) 夜7時～9時  
ところ 公民館 3階講座室 定員 30名  
\*ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

〈青年室活動〉

## ワカモノたちのもちつき大会

公民館の1階にある青年室で企画・運営している、若者による若者のための「もちつき大会」です。準備からみんなで一緒にやってみませんか。お気軽にご参加ください。

とき 1月24日(土) 昼1時～4時ごろ  
対象 中学生～30代の方  
ところ 公民館 南側駐車場 ※雨天実施  
申込先 公民館 ☎ (572) 5141



第一部：リーディング発表会(昼2時～)  
出演 ・ピースリーディング朗読ワークショップ  
参加者の皆さん  
・非戦を選ぶ演劇人の会の皆さん

演出 関根 信一

使用台本 『いま、憲法のはなし』(台本構成：石原 燃)

第二部：ゲストトーク(昼3時20分頃～)

お話し 川口 創(弁護士) 聞き手 石原 燃(脚本家)

【川口さんのプロフィール】

イラク自衛隊派兵差止訴訟弁護団事務局長として2004年から4年間、多くの原告、支援者らとともに活動。現在は「一人一票実現訴訟」にも参加している。著書に『立憲主義の破壊に抗う』(新日本出版社)など。



ワークショップの様子

〈くにたちブッククラブ 時空をこえる言葉2〉

## 田中慎弥『共喰い』

(集英社文庫)

講師 山岸 郁子 (日本大学・日本近代文学)

とき 1月8日(木) 夜7時半～9時半  
ところ 公民館 3階講座室  
申込先 公民館 ☎ (572) 5141

\*事前に作品を読んできてください。

\*今年度のくにたちブッククラブは、今回が最終回です。

## 〈親子で遊ぼう・考えよう〉 イクメン歓迎!お手軽! 親子コミュニケーション ～体づくり体操&3分工作～

親子でコミュニケーションといっても何をして良いかわからない……。そんなとき手軽でカンタンにコミュニケーションをとる方法をお伝えします。準備がいらぬ遊びや、3分工作で作ったもので遊ぼう!など。

親子でコミュニケーションを取りながら楽しい時間を過ごしましょう!ぜひお父さんご参加ください。

講師 山田 修平

(NPO法人東京学芸大こども未来研究所)

とき 1月25日(日) 朝10時～12時  
ところ 公民館 地下ホール  
定員 子ども(2歳～小学生)と保護者20組(先着順)  
持ち物 飲み物、タオル、動きやすい服装で  
申込先 1月9日(金) 朝9時～  
公民館 ☎ (572) 5141

## 母と娘のむずかしさ

講師 大美賀 直子 (精神保健福祉士、  
産業カウンセラー・All About「ストレス」ガイド)

母と娘の関係には、心理的な距離の近さから生じる難しさがあります。

母が娘に依存してしまう背景にはさまざまな原因がありますが、同性同士であるがゆえに、共感によってお互いを拘束してしまうことがあるのです。その影響から、娘にとって世界の中心は母になり、家族から自立できない大人になったり、成人してもそのトラウマを抱えている「アダルト・チルドレン」と呼ばれる大人になることもあります。

摂食障害や非行といった影響までもまねくことがあるこの問題を正しく理解し、じっくり考える機会にします。

- ◆第1回 1月30日(金)「母と娘のむずかしさ」とは
- ◆第2回 2月6日(金)娘の立場からみた「むずかしさ」
- ◆第3回 2月13日(金)母の立場からみた「むずかしさ」

〈大美賀さんの本〉

『長女はなぜ「母の呪文」を消せないのか』(さくら舎)

時間 朝10時～12時(毎週金曜日、全3回)

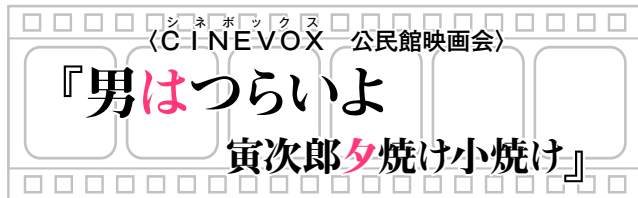
ところ 公民館 3階集会室

定員 20名(年齢・性別不問。先着順)

\*全回参加できる方優先。

申込先 1月9日(金)朝9時～

公民館 ☎ (572) 5141



1976年 松竹 カラー 109分 ※DVD版

原作・監督 山田洋次 音楽 山本直純

出演 渥美清、倍賞千恵子、太地喜和子、宇野重吉、岡田嘉子、下條正巳、前田吟、三崎千恵子、太宰久雄、笠智衆、寺尾聰、桜井センリ、大滝秀治 ほか

ご存知《フーテンの寅さん》がまたまた笑いと涙と人情で巻き起こす大騒動!

マドンナに個性派・太地喜和子、ゲストに名優・宇野重吉と無声映画時代の大スター・岡田嘉子を迎え、寅さん=渥美清も絶好調! なシリーズ第17作。乞うご期待。



とき 1月25日(日) 昼2時～(開場: 昼1時)

ところ 公民館 地下ホール 定員 85名(当日先着順)

\*ご自由においでください。ただし、定員を超えた場合は入場を制限させていただきます。

〈介護ライフバランス②〉

## 「介護の達人は人生の達人！」

—介護短歌を通して、家族との関係を見つめ直す—

講師 小谷 あゆみ

(フリーアナウンサー、

NHKEテレ「ハートネットTV 介護百人一首」司会)

多くの介護体験者と接してこられた小谷あゆみさんは、「介護は発想を転換させるチャンス」とおっしゃっています。さまざまなエピソードや思いを聞きながら、介護をする人、される人の想いを共有できればと思います。

介護の中で感じたつらいことや悲しみを、介護短歌を通して発散し、介護を前向きにとらえましょう。介護の経験がない方も、やがてくるであろう介護や自身の老いを客観的にとらえる機会にしませんか。

回	日時	テーマ
1	1月31日(土)	「介護の達人は人生の達人！」 介護短歌ってどんなもの?
2	3月8日(日)	介護短歌 作品発表会

時間はいずれも昼2時～4時

ところ 公民館 3階講座室

定員 30名(先着順)

\*1回のみ参加も可能です。お気軽にお越しください。

申込先 公民館 ☎ (572) 5141

〈地方自治講座〉

## 市民のためのまちづくり講座②

講師 新藤 宗幸 (千葉大学名誉教授)

住民意向や地域の実情に沿った特色のあるローカル・ルールや取り組みなどを知り、市民自治のために私たちができる手法や取り組むべき方法を学習します。

市民の想いに寄り添う市民が決めるまちづくりは、どのようにして築き上げるのかを考えたいと思います。

回	月日	内容
1	2月12日	ローカル・ルールとまちづくり ～地域の自立に向けて～
2	2月26日	地方分権改革と民主主義 ～新国家主義へ対抗する～

いずれも木曜日、夜7時～9時

ところ 公民館 3階講座室

定員 30名(先着順。1回のみ参加も可能です。)

申込先 1月13日(火)朝9時～

公民館 ☎ (572) 5141

## くにたち野鳥観察

—多摩川周辺—

この時期に多摩川でみられる野鳥について、1回目は郷土文化館で先生から解説してもらいます。2回目は多摩川で野鳥観察を行います。今の時期にどんな鳥がいるのか、先生のお話を聞きながら、一緒に観察してみましょう。

ぜひ、2回続けてご参加ください。(1回だけの参加も可)

講師 相馬 尚教

(府中市郷土の森博物館 自然観察指導員)

◆第1回〈講義〉 1月31日(土)朝10時~12時頃

ところ 郷土文化館 研修室

◆第2回〈観察会〉 2月14日(土)朝9時~11時頃

ところ 多摩川周辺

集合・解散 いずれも郷土文化館

持ち物 筆記用具、お持ちの方は野鳥図鑑、双眼鏡等

定員 15名(先着順)

申込先 1月8日(木)朝9時~

公民館 ☎ (572) 5141

## 来年度、保育を希望するグループは お知らせください

公民館には公民館保育室があり、公民館で活動する市民グループの中で保護者が乳幼児をあずける必要がある場合、保育を行います。

来年度(2015年4月~)保育を希望するグループ、考えているグループは1月30日(金)までに公民館へお知らせください。



〈地域展開講座〉

## 東京の局地的豪雨(ゲリラ豪雨)を 学ぶ、知る

講師 高橋 日出男(首都大学東京)

集中豪雨がなぜ都市域で多く発生するのかについては、気候学・気象学や地理学の分野でさまざまな研究が行われ、原因として有力なものに、ヒートアイランド現象や都市の建物の影響、大気汚染という説が挙げられています。

人間と自然のかかわりを探求する地理学をもとに、東京を中心に気候・気象のデータを分析している高橋さんから最新の都市型気候・気象を学んでみませんか。

〈高橋さんの本〉『気候帯でみる自然環境①~⑤』(少年写真新聞社)、『ちきゅうかんきょう』(フレーベル館)ほか

とき 1月31日(土)昼2時~4時

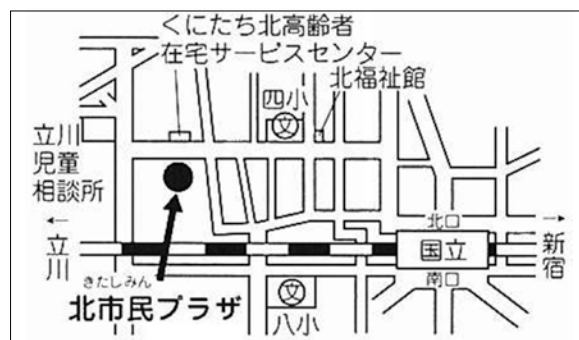
ところ くにたち北市民プラザ第1、2会議室

定員 40名(先着順)

申込先 1月9日(金)朝9時~

公民館 ☎ (572) 5141

■北市民プラザ周辺の地図■



## はじめての銅版画 —Etching Work Shop—

講師 山本 佳奈枝(銅版画家)

さかた きよこ(銅版画家)

興味はあるけど、難しそう?うまく描けるかな?どんな風にできる? そんな疑問に応えながら銅版画創作を楽しむ、初心者向けのワークショップです。

銅版画(エッチング)とは、銅板に描いた絵を腐蝕させて版を作り、できた凹部にインクを詰めて紙をのせ、プレス機で刷る版画です。講座では、この腐蝕法による技法で、銅版画ならではの繊細な表現で小さな作品を作ります。

集まった仲間とともに作業の時間を楽しみながら、作品を創ってみませんか。

とき 2月1日、15日、3月1日、15日

いずれも日曜日、昼2時~5時

ところ 公民館 3階実習室

定員 10名(先着順)



昨年度の作品

対象 原則休まずに出席できる方

はじめて参加する方を優先します

材料費 千円(ニードル、銅板、版画紙など)

持ち物 8×10cmの下絵(タテヨコ自由)

エプロン(よごれてもよい服装)、筆記用具、

申込先 1月13日(火)朝9時~

公民館 ☎ (572) 5141

〈社会体育事業〉

## 「街を・山を歩く」第4回目

**とき** 1月29日(木)〈雨天中止〉  
**集合** 谷保駅北口 朝9時集合  
**実施方面** 横浜中華街・みなとみらい方面  
**対象** 市内在住、在勤者  
**チラシ** 1月13日(火)から市役所3階生涯学習課、市民総合体育館、公民館、北・南市民プラザで配布します。  
**申込方法** 日程、コース、申込方法等、チラシの内容を確認のうえ、1月13日(火)～26日(月)の期間に下記までお申込みください。  
**申込・問合せ先** 国立市教育委員会 生涯学習課  
 社会教育・体育担当 ☎(576) 2107 (直通)

### 〈介護ライフバランス①〉仕事と介護の両立

12月7日(日)に実施を予定していたこの講座(内容は公民館だより11月号参照)は、講師の体調不良により1月18日(日)13時～に延期となりました。参加申込み受付中です。

**パソコンフレンズ会員募集**  
 初心者レベルから中級レベルまでの実力を養成できる学習サークル。趣味や就職・転職の方にも十分対応できる内容です。親睦をかねて楽しく学びませんか。  
**日時** 月3回 日曜午後  
**場所** 公民館 3階講座室(予定)  
**連絡先** 杉本 080(1109) 0769



パソコン (8ページにもあります)

**水泳クラブ「かるかも」会員募集**  
 今年こそ、水泳で健康づくりをしませんか。免疫力アップには水泳が一番。初心者から上級者まで泳力別にコーチの指導を受けていきます。年齢・性別不問。体験可。  
**日時** 毎週火曜日 昼2時～4時  
**場所** 総合体育館 室内プール  
**連絡先** 榎本(575) 5181

**水泳同好会会員募集**  
 新年を迎え今年こそ運動不足解消!と思っている方、水泳を始めてみませんか。レベル別に公認コーチが親切に指導します。年齢性別不問。体験にどうぞ。  
**日時** 毎週火曜日 夜7時～9時  
**場所** 総合体育館 室内プール  
**連絡先** 石橋(577) 2621

## 三原色で描く キミ子方式水彩画展

講座「シルバー学習室 第35期」の水彩画展を行います。三原色(赤・青・黄色)と白の絵の具で誰でも絵が描ける「キミ子方式」で描いた「もやし」「空」「毛糸の帽子」などを展示します。障害者センター「あさがお」、キミ子方式水彩画サークル「絵筆の会」との合同展です。  
 \*「シルバー学習室」は市内に住む高齢者の方を対象に、料理、リトミック、自然観察、歴史、高齢者問題などを学んでいくなかで、新たな自分の発見や、受講者同士の交流・仲間づくりをしていく講座です。

**期間** 2月3日(火)～8日(日)  
**ところ** 公民館 1階市民交流ロビー  
**連絡先** 公民館 ☎(572) 5141  
 障害者センター ☎(573) 3344

## 第30期国立市公民館運営審議会発足

公民館運営審議会は、市民の立場から公民館事業などについて調査・審議する委員会です。

(任期:平成26年11月1日から平成28年10月31日まで)

氏名	所属・役職(推薦団体・機関)
1 戸井田展	国立市立小・中学校副校長会
今村和義	心遊会
古旗真幸	たまぶらねっと
丹野春香	青年室利用者連絡会
長田利信	公民館利用者連絡会
富田和枝	哲学読書会
2 佐藤節子◎	まちの財政を学ぶ会
龍野瑤子	加害者としての戦争を語る会
大井利雄	国立まなびあるきの会
間瀬英一郎	まほうのランプ
福田孝二	都営泉二丁目アパート自治会
田中一嘉	国立市商工会青年部
3 三好紀子	民生委員・児童委員
4 大串隆吉	首都大学東京名誉教授
山田哲也○	一橋大学大学院社会学研究科准教授

◎は委員長、○は副委員長

(注) 1:学校教育関係者 2:社会教育関係者  
 3:家庭教育関係者 4:学識経験者

### 公民館運営審議会報告

12月9日(火)第2回定例会を開催。委員14名、館長、職員2名が出席。傍聴1名。

#### 前回の議事録確認

#### 報告事項

○公民館だより編集研究委員会  
 11月号の反響並びに12月号の内容、14期から15期への編集研究委員会の引き継ぎ等報告あり。

#### ○社会教育委員の会

11月18日(火)に定例会を開催。答申の作成に向け、これまでの内容を担当ごとにあらためて検討し全体のまとめに入っている。次回12月16日(火)の予定。

#### ○東京都公民館連絡協議会

第2回研修会、第8回委員部会(ともに11月22日(土))について報告あり。

第3回研修会(1月31日(土))の講師、内容について説明あり。次回の定例会は、12月24日(水)の予定。

#### 委員研修

くにたち郷土文化館館長 荒井敏行氏(元国立市公民館館長)を講師に「楽しい集まりとふかい学習を支えるために」公民館運営審議会の大切な仕事」をお話しいただいた。①公運審とは何か、②公民館はなぜできたのか、③国立の公運審は何をしてきたか、④社会の変化とこれからの公運審について、資料をもとに説明。

次回は1月13日(火)午後7時15分から。傍聴歓迎。(戸井田)

# ひろば

(7ページにもあります)



## 第198回くにしんぼクラブ ジョンさんの韓国料理

寒い季節に、体が温まる家庭料理を習いましょう。材料費800円。ふきんとゴミ袋をご持参ください。  
日時 1月24日(土)昼1時  
場所 福祉会館 3階料理講習室  
連絡先 八宮(571) 10007

## 「地震と原発連続映画会」No.6

「チェルノブイリ28年目の子どもたち」OurPlanet-TV(2014年)43分。子どもたちを守るために力を尽くすウクライナから私たちは何を学べるのか。資料代500円  
日時 1月30日(金)夜7時～9時  
場所 公民館 3階講座室  
連絡先 同実行委(576) 6075

## 「ハムケ・共に」コンサート

「ハムケ・共に」は、立川朝鮮学校を支援する活動をしています。参加費千円  
日時 2月7日(土)夜7時  
場所 福祉会館 大ホール  
連絡先 稲川(576) 2308

## おしゃべり会のご案内

発達しようがいを考える会です。落着きがない・集団の中でみんなと違う・言葉の遅れなどお子さんの発達に心配のある方、お話しませんか？ 太陽と卯の会  
日時 1月18日(日)昼2時  
場所 福祉会館 和室(大)  
連絡先 鈴木(080) 343 6395

## くにたちで市民発電所を作ろう

14時～ミニソーラー発電WS 15時～P.V.の田中稔氏を講師に、くにたちでどんな市民発電所が作れるか話し合います。資料代500円。エネフクにたち  
日時 1月31日(土)昼2時  
場所 公民館 3階中集會室  
連絡先 藤井(090) 4750 0326

## 今月の公民館 (1月、2月初)

\*印は参加自由、他は事前申込みが必要です。

- 8日(木) 夜 くにとちブッククラブ
- 15日(木) 夜 \*図書室のつどい
- 18日(日) 昼 ピースリーディングin国立
- 24日(土) 昼 ワカモノたちのもちつき大会
- 25日(日) 朝 親子で遊ぼう・考えよう
- 25日(日) 昼 \*CINEVOX公民館映画会
- 30日(金) 朝～母と娘のむずかしさ
- 31日(土) 昼 東京の局地豪雨(ゲリラ豪雨)を学ぶ、知る(北市民プラザ)
- 31日(土) 朝～くにたち野鳥観察
- 31日(土) 昼～介護の達人は人生の達人!
- 2月1日(日) 昼～はじめての銅版画
- 3日(火) ～\*キミ子方式水彩画展
- 12日(木) 夜～市民のためのまちづくり講座②

## 公民館図書室からのお知らせ

公民館図書室は1月20日(火)から2月1日(日)まで図書館システム更新のため、貸出し・予約の受付ができません。本と新聞・雑誌の閲覧のみの開室となります。利用者の皆様には、大変ご不便をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。詳しくはホームページをご覧ください。

## 〈サークル訪問200〉 「楽書会」

活動は10時からと聞いていたのですが、5分前に伺うと、既に10数名の方が机上に半紙を広げ、筆を運んでいた。福祉会館の3階である。新年の作品展に向けての書だそうであるが、あらゆる書体があつて、その多彩さに驚かされる。

会員の小橋川明子さんによると、指導して下さる先生は、楷書、行書、草書、隸書、篆書、かなの総てに通じた書家だと言う。

その先生「杉山雅風氏が現れると、作品を手にした会員が次々に氏を囲み、講評を請い、朱を入れてもらう。先生が自ら手本を示されることもあるが、今年95歳という年齢をいささかも感じさせない書である。この会の発足から20年間、休まず指導を続けていられるそうである。

会員の多くも70、80代だが、会場は活気に満ち、皆若々しく見える。作品もどれも洗練とした印象である。書というのは年をとらないし、それが書き手にも反映するのかもしれない。

「入会したばかりで、他の方には遠く及びません」と言う女性が見えたが、私にはとても上手に見える。



書を楽しんで学ぶ

る。聞くと、子どものころ習っていた。数十年前ぶりに始められた由、テキストの「寶墨軒本千字文」は、書聖王羲之の子孫である智永の作で、入会者はまずこれを手本に楷書や草書の手ほどきを受け、その後好みの書体へ進むと言う。先生によると、「最近では新奇な書も多いのですが、私はやはり正統的な書が大切だと思っています」とのこと。

大作を臨書されていた会長の福井松男氏は、よく近隣の小・中学校から運動会や学芸会の看板書きを依頼されるそうである。「この会は和気あいあいとして、楽しいですよ。入ったら辞められません」と言われたのが印象的であった。

毎週金曜午前10～12時。\*入会は国立在住の60歳以上の方のみ。  
連絡先 小橋川(575) 3157  
〈文・写真 武内法行〉